
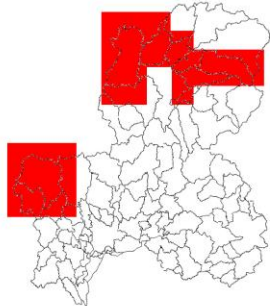


エチゴキジムシロ	<i>Potentilla togasii</i> Ohwi	準絶滅危惧
		バラ科
選定理由	県内では産地がある程度限られるやや稀な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅にすぐ直結することはないが、生育地の消滅が継続的に起これば、県内個体の絶滅につながるため。	写真(高野裕行) 
形態の特徴	走出枝のない柔毛の多い多年草。地下茎は直立-傾上し、肥厚し、やや木質。花茎は長さ20cm以下。葉は羽状複葉、頂3小葉が下の小葉より大きな(3-)5(-7)小葉がある。頂小葉は菱状倒卵形、やや深く尖った歯がある。花は5数性、4-5月に集散花序に着き、径2cm弱。萼片は三角状披針形、副萼片は三角形-披針形。花弁は黄色、円形。雄蕊20。雌蕊多数。	
生態的特徴	多雪地の落葉樹林、崖、山の斜面に国内では稀に生育。	
分布状況	本州(秋田から滋賀)。ロシア北東部。県内では多雪地の山地の明るいところにやや稀。	
減少要因	山林管理の停滞に起因する林縁の樹林化、林冠の鬱閉化のため生じる日照不足からの生育不良。これまでの多雪地帯へのシカの進出による食害。	
保全対策	山林管理の促進による林縁の低~中茎草地の維持、林床の日照確保。シカの個体数管理による食害抑制。	
特記事項	走出枝がない点で、ツルキジムシロ <i>Potentilla fragalioides</i> L. やエチゴツルキジムシロ <i>Potentilla toyamensis</i> Naruh. et Tak. Sato と区別でき、小葉が多くなく鈍頭楕円形ではない点でキジムシロ <i>Potentilla sprengeliana</i> Lehm. と区別できる。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II b. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Rosaceae 33. <i>Potentilla</i> L. N. Naruhashi	

文責: 高野裕行